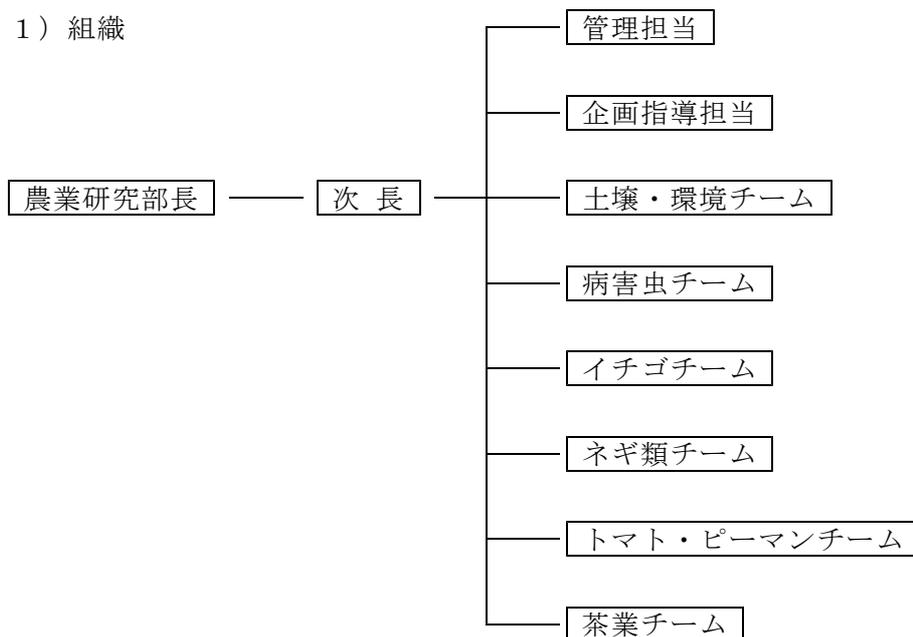


## II-1 農業研究部

### 1. 組織および職員配置状況

#### 1) 組織



#### 2) 職員配置状況

組織	職種	職員		技師	労務技師	業務技師	事務補佐	計	備考
		事務	技術						
部長			1					1	
次長		1						1	
管理担当		5		1			3	9	
企画指導担当			7					7	広域普及指導員 4
土壌・環境チーム			6		1			7	
病害虫チーム			9					9	
イチゴチーム			6		1	1		8	
ネギ類チーム			4					4	
トマト・ピーマンチーム			5	1	1			7	
茶業チーム			2	1				3	
計		6	40	3	3	1	3	56	

## 2. 業務

- ①農産物の安全安心に関する研究
- ②環境に優しい農業生産技術
- ③病害虫管理技術及び土壌管理技術
- ④植物検疫、病害虫発生予察情報、気象情報等の情報発信
- ⑤イチゴ・ネギ類・いも類・トマト・ピーマン・茶等の品種選定・育種
- ⑥イチゴ・ネギ類・いも類・トマト・ピーマン・茶等の高品質、省力・低コスト栽培技術
- ⑦バイオテクノロジー手法を用いた品種判別技術
- ⑧農産物の安全安心・病害虫管理・各種野菜生産等に関する既開発技術の現地移転ならびに指導者・生産者に対する指導

### 3. 試験研究課題

試験研究課題名 I 大課題 1 中課題 1) 小課題 (1) 試験項目	担当	連携機関	研究期間	予算区分
<b>I 産地間競争に打ち勝ち、もうかる農林水産業を実現するための研究開発</b>				
①ブランド化のための技術開発				
1 イチゴ新品種の育成				
1) 交配	イチゴチーム	病害虫チーム	H16～25	県単
2) 実生選抜	〃	〃	〃	県単
3) 系統選抜				
(1) 二次選抜	イチゴチーム		H16～24	県単
(2) 三次選抜	〃	病害虫チーム	〃	〃
(4) 生産力・特性検定	〃	病害虫チーム、イチゴ品種育成支援プロ	〃	〃
(5) 地域適応性試験	〃	品種育成支援プロ	〃	〃
6) 「大分3号」の現地栽培支援	〃	広域普及員、振興局、ブランド推進課、園振室、全農大分県本部	〃	〃
2 DNAマーカーを用いた県育成品種判別法の開発				
4) イオンビーム照射キクの品種判別	イチゴチーム	花きチーム	H22～23	県単
5) トルコギキョウの品種判別	〃	〃	〃	〃
6) 判別法の簡易化および実用性の検討	〃	〃	〃	〃
3 種なしカボス「シードレス豊のミドリ」の育成				
1) 3倍体利用による種子なしカボスの育成				
(1) 3倍体の作出	イチゴチーム	果樹グループ、カボス・中晩柑チーム	H21～23	県単
②マーケット起点のものづくりを支える技術開発				
4 ミナミアオカメムシを含めた大豆吸実性カメムシ類に対する防除対策技術の確立				
1) 発生実態調査				
(1) 現地圃場での発生実態解明				
イ 現地圃場での発生実態調査	病害虫チーム	九沖、福岡県、(株)富士フレーバー、水田G、北部局、豊肥局	H21～23	県単
2) 防除技術の確立				
(2) 追加防除適否基準の作成				
ア 第3世代成虫に対する防除時期と被害量の検討	〃	北部局	H22～24	県単
イ 大豆被害粒産出能力の差異比較	病害虫チーム	北部局、豊肥局、水田G	H21～23	〃
(3) 大豆総合防除体系確立	〃	北部局	H22～24	〃

試験研究課題名		担当	連携機関	研究期間	予算区分
I 大課題	1 中課題	1) 小課題	(1) 試験項目		
5	イチゴ育苗期の大規模経営支援のための安定生産技術				
	1) 育苗期の病害虫防除技術の確立	病害虫チーム	各振興局	H21～23	県単
	2) 現地の課題に応じた育苗期の防除実証試験				
	(1) うどんこ病の防除対策	病害虫チーム	〃	H21～23	県単
	(2) イチゴ病害に対する薬剤選定	〃		H22～24	委託
	3) 県独自品種の病害抵抗性検討	〃	イチゴチーム	H21～23	県単
6	パッケージセンターと局所環境制御技術を活用した大規模高収益イチゴ経営モデルの構築				
	1 局所環境制御等による生産安定技術の確立				
	4) 灌水同時施肥と炭酸ガスの効率的施用による厳寒期の果実品質向上と増収技術				
	(1) 施肥効果を判定するための基準作成（夏季）	イチゴチーム	土壌・環境チーム、佐賀県、九沖、長崎県、九電等	H22～24	国庫
	(1) 施肥効果を判定するための基準作成（栽培期間中）	〃	〃	〃	〃
	(2) 効率的な施肥技術の確立	〃	〃	〃	〃
	(3) 炭酸ガス濃度制御方法	〃	〃	〃	〃
	(4) 炭酸ガスの施用効果を高める肥培管理	〃	〃	〃	〃
	2 規模拡大のための省力・低コスト化技術の確立				
	1) 作期拡大に対応した省力育苗方法				
	(1) ランナー子苗を活用した省力・低コスト育苗	イチゴチーム	佐賀県、長崎県、九沖、九電等	H22～24	国庫
	2) 作期分化に対応した省力育苗方法				
	(2) 低温処理育苗を利用した作型前進技術	イチゴチーム	佐賀県、長崎県、九沖、九電等	H22～24	国庫
	イ 先しばり果発生要因の解明	〃	〃	〃	〃
	(3) マルチ後定植等の省力化技術における花芽分化促進方法	〃	〃	〃	〃
	(4) 現地実証	〃	〃	〃	〃

試験研究課題名		担当	連携機関	研究期間	予算区分
I 大課題	1 中課題	1) 小課題	(1) 試験項目		
7	大分イチゴのブランド化を図るための「大分3号」の高品質、収量安定技術の開発				
	2) 作型前進化、出荷標準化技術の確立				
	(1) 低温処理技術の利用による年内収量確保技術	イチゴチーム		H23～24	県単
8	安全生産技術に対する研究				
	1) 普通作物の病害虫防除対策				
	(1) 水稲病害虫防除の効率化、体系化				
	ア 水稲・大豆害虫の個別防除効果試験	病害虫チーム	豊肥振興局	H22～24	委託
	2) 野菜類病害虫に対する薬剤選定				
	(1) オオバにおける現地実証試験	病害虫チーム	中部振興局	H22～24	県単
	(2) ネギ類病害に対する薬剤選定	〃	北部振興局	H22～24	県単一部委託
	(3) ネギ類の害虫防除対策	〃	北部振興局	H22～24	県単一部委託
	(4) その他野菜病害虫の個別防除効果試験	〃	中部振興局	H22～24	県単一部委託
9	有機農業技術支援				
	1) 水稲に関する栽培技術支援				
	(2) 水稲における実態調査				
	ア 病害虫に関する実態調査	病害虫チーム	水田G、各振興局	H21～23	県単
	イ 水稲栽培技術の検証	〃	〃	H23～24	県単
	2) 野菜に関する栽培技術支援				
	(2) 病害虫防除技術の検証及び開発				
	ア サトイモ	病害虫チーム	土壌・環境チーム、各振興局	H22～24	県単
	イ ダイコン、ホウレンソウ	〃	〃	〃	〃
	ウ 畑作レタス	〃	〃	〃	〃
	エ ニンジン	〃	〃	〃	〃
10	有機農業適応技術の検証と品質への影響評価				
	1) 現地実態調査	土壌・環境チーム		H22～24	県単
	2) 緑肥作物等を利用した抑草技術	〃		〃	〃
	3) 有機栽培（野菜）が土壌微生物相に与える影響	〃		〃	〃
	4) 野菜の内容成分と食味への影響調査	〃		〃	〃
	5) 有機栽培マニュアル策定に向けた施肥方法の検討	〃		〃	〃
11	園芸戦略品目の総合的土壌管理手法の確立				
	1) 土壌物理性の診断法検討				
	(1) トマト、(2) ピーマン、(3) 小ネギ、(4) ニラ	土壌・環境チーム	関係振興局	H21～24	県単
	2) 有機物の診断方法検討				
	(1) 肥料養分の迅速診断技術	土壌・環境チーム		H21～24	県単

試験研究課題名		担当	連携機関	研究期間	予算区分
I 大課題	1 中課題	1) 小課題	(1) 試験項目		
12	白ネギの地域別優良品種・作型開発と肥料高騰に対応した施肥体系の確立				
	1) 収穫期別の品種・作型設定	ネギ類チーム		H21～23	県単
	2) 中間地での5～6月収穫の品種・抽台回避技術の確立				
	(1) 晩抽性品種の播種時期(定植時期)と花芽分化及び抽台開始時期	ネギ類チーム	豊肥振興局	H21～23	県単
	3) 肥料(リン酸、カリ)価格高騰を考慮した施肥技術の確立	〃		〃	〃
13	ネギ類における高温期の生態反応と制御技術の確立				
	1) 高温期のハウス内における作業環境、生育環境改善法と評価				
	(1) 遮光方法と機能性フィルムの組み合わせによる品質向上	ネギ類チーム		H21～23	県単
	2) ニラ、小ネギの環境要因に対する対ストレス強度と生態変化の解明	〃		〃	〃
14	おおいたニラの周年多収穫、高品質化と鮮度保持技術の確立				
	1) タフボーイの栽培技術の確立				
	(1) 品種特性の解明	ネギ類チーム		H21～23	県単
	(2) 化学肥料低減技術	〃	土壌・環境チーム	〃	〃
	2) 鮮度保持技術の確立	〃	産業科学技術センター	〃	〃
15	病虫害発生予察事業				
	2) 発生予察技術支援対策				
	(1) ウイルス保毒虫、薬剤抵抗性害虫の検定	病虫害チーム	各振興局	H22～24	県単一部国庫
16	農薬残留特殊調査(マイナー作物への登録拡大)	〃	ブランド推進課、関係振興局	H22～24	県単、一部国庫
17	「おおいた茶」ブランド確立に向けた被覆栽培技術				
	1) 品種に応じた被覆栽培技術	茶業チーム		H20～23	県単
	2) 施肥方法の改善による生葉品質の向上	〃		〃	〃
	3) 県内茶園の実態把握(現地実証)	〃		〃	〃
	4) 栄養系適応性検定試験	茶業チーム	(独)野茶研、各県茶試験場	長期	県単

試験研究課題名		担当	連携機関	研究期間	予算区分
I 大課題	1 中課題	1) 小課題	(1) 試験項目		
③力強い担い手を育成するための技術開発					
18 新需要に対応した新たな茶生産技術の確立					
1) 既存園における高位安定生産のための整・剪枝技術の確立					
	(1) 秋・春整枝時期による作期分散技術	茶業チーム		H19～24	県単
	(3) 主要品種の秋摘み茶生産技術	〃		〃	〃
2) ドリンク茶等新規造成茶園における新品種の安定多収技術の確立					
	(1) 多収品種の施肥効率の改善	茶業チーム	中部振興局、実需者	H19～24	県単
	(2) 新植茶園の気象データの収集	〃	中部振興局	〃	〃
④地球温暖化・環境対策等の技術開発					
19 チャの難防除害虫の効率的な防除技術の確立					
1) 難防除害虫に対する発生予測と防除技術の確立					
	(1) チャトゲコナジラミの発生予測と防除技術の確立				
	ア 発生消長調査	茶業チーム	東部振興局	H23～25	県単
	イ 防除薬剤、防除時期の検討	〃	〃	〃	県単一部委託
(2) クワシロカイガラムシのふ化予測技術の確立					
	ア 茶園内での気温とふ化率の変化	茶業チーム	東部、北部、中部、豊肥振興局	H23～25	県単
	イ 現地茶園温度データ採取	〃	〃	〃	〃
2) 越冬害虫の密度低減技術の確立					
	(1) 秋期防除・せん枝によるチャノホソが越冬密度低減技術	茶業チーム		H23～25	県単
	(2) 秋期防除・せん枝によるウスミドリカスミガメ越冬密度低減技術	〃		〃	〃
3) 薬剤感受性低下に対応した防除技術の確立					
	(2) カンザワハダニに対する各種薬剤の検定	茶業チーム		H23～25	県単
20 ピーマン安全安心栽培技術の開発					
1) ピーマンうどんこ病に対する防除技術の確立					
	(1) 発生生態の解明	病害虫チーム	中部振興局、広域普及指導班、JAおおい	H21～23	県単
	(2) 防除技術の確立	〃	〃	〃	〃
2) GAP手法に基づくピーマン腐敗果防止技術の開発					
	(1) 腐敗果発生の要因解明	〃	トマト・ピーマンチーム、広域普及指導班、園芸振興室、プラント推進課、各振興局、JAおおい、JA全農おおい	H21～23	〃
	(2) GAP手法に基づくピーマン腐敗果防止技術の実践	〃	〃	〃	〃
3) 防除技術の確立					
	(1) 夏秋ピーマンにおける現地実証試験				
	ア 天敵資材を用いた現地実証試験	病害虫チーム	トマト・ピーマンチーム、研究普及課、広域普及指導班、豊肥・西部振興局、JAおおい	H21～23	県単

試験研究課題名					担当	連携機関	研究期間	予算区分
I	大課題	1	中課題	1) 小課題 (1) 試験項目				
	イ	タバコガの現地実態調査			トマト・ピーマンチーム、研究普及課、広域普及指導班、中部・豊肥・西部振興局、JAおおい	H21～26	県単一部国庫	
試験研究課題名					担当	連携機関	研究期間	予算区分
I	大課題	1	中課題	1) 小課題 (1) 試験項目				
21		高温基調下での気象変化に対応したトマトの安定出荷技術						
	1)	生理障害軽減のための気象状況(予測)を考慮した灌水技術						
	(1)	生理障害回避のための要因分析(夏秋地帯)(水管理)	トマト・ピーマンチーム			H23～25	県単	
	(2)	生理障害回避のための要因分析(夏秋地帯) (赤採りトマト裂果対策)	〃			〃	〃	
	2)	出荷量平準化技術と出荷予測システムの開発						
	(1)	前期作型(半促成) + 後期作型(抑制) 技術の確立	トマト・ピーマンチーム			H23～25	県単	
	(2)	出荷予測のための条件設定	〃	豊肥振興局		〃	〃	
	3)	一段密植栽培における出荷平準化技術						
	(1)	高温期の着果安定	トマト・ピーマンチーム			H23～25	県単	
	(2)	栽培ベットの改良	〃			〃	〃	
22		夏秋ピーマンにおけるe-naおおい安定生産技術の確立						
	1)	有望品種選定	トマト・ピーマンチーム	病害虫チーム		H21～23	県単	
	2)	尻腐れ果軽減技術	〃	南九州化学工業(株)、病害虫チーム、土壌・環境チーム		〃	〃	
	3) -1	タバコガ軽減技術(LED)	〃	(株)ぎっくうらく		〃	〃	
	3) -2	タバコガ軽減技術(防虫ネット)	〃	病害虫チーム		〃	〃	
23		環境負荷を低減する低コスト施肥技術の開発						
	1)	土壌由来温室効果ガス・土壌炭素調査事業	土壌・環境チーム	関係振興局、家畜衛生飼料室		H20～24	国庫委託(一部県単)	
	4)	生理障害抑制技術構築のための新たな土壌診断技術	〃	中央農研、九州大		H21～23	国庫	
<b>II 研究を支える基礎調査と優良種苗等供給体制の確立</b>								
		イチゴのウイルスフリー苗の育成	イチゴチーム	病害虫チーム		長期	県単	
		カンショの茎頂培養によるウイルスフリー苗とサトイモ優良種苗保存育成	〃	ネギ類チーム		〃	〃	
		カンショの品種選定	ネギ類チーム	九州沖縄農業研究センター		〃	〃	

#### 4. 研究成果等の公表及び情報発信

##### (1) 刊行物等の発行

刊行物誌名	刊行年月日	項数	部数
大分県農林水産研究指導センター特別研究報告 (農業研究部編) 第1号	H23. 3. 31	49	150
大分県農林水産研究指導センター研究報告 (農業研究部編) 第2号	H24. 3. 31	68	150
平成23年度植物防疫事業成績書	H24. 3. 31	60	150

##### (2) 学会誌、専門誌等への投稿

執筆者	論文名	掲載誌名	巻(号)	掲載項
岡崎真一郎・和田志乃・湯川淳一	ダイズ子実の被害形状と程度を決定するミナミアオカメムシの吸汁影響力における雌雄および齢期間差異	九州病害虫研究研究会報	57	102-103
玉嶋勝範	大分県におけるモモンクイガの発生時期の再検討	九州病害虫研究研究会報	57	85
小野元治・武政彰・和田志乃	フィプロニル剤のイネクロカメムシ成虫に対する密度抑制効果	九州病害虫研究研究会報	57	87
飯田裕一郎・窪田昌春・雨川公洋	トマト葉かび病菌の寄生性分化機構	植物防疫	65	720-723
岡崎真一郎・雨川公洋・玉嶋勝範・桃下光敏	夏秋ピーマンにおける硫黄粉剤畝上散布とスワルスキーカブリダニ放飼との併用によるIPM体系	日本応用動物昆虫学会大会講演要旨	56	3
和田志乃・岡崎真一郎・小野元治	フェロモントラップを利用したミナミアオカメムシの発生予察法の検討	日本応用動物昆虫学会大会講演要旨	56	17
上島慧里子・玉嶋勝範・祖田嘉教・山崎修一・岡崎真一郎	防虫ネット被覆によるタバコガ類の被害抑制効果とそのコスト試算	日本応用動物昆虫学会大会講演要旨	56	19
山崎修一・雨川公洋・玉嶋勝範・岡崎真一郎	ピーマン軟腐病の伝染にはタバコガとトウヨウクキエバエが関与する	日本植物病理学会九州部会講演会講演要旨	—	1
雨川公洋・山崎修一・祖田嘉教・大坪亮介・山下大輔・岡崎真一郎	ピーマン軟腐病の防除にはタバコガの防除が有効である	日本植物病理学会九州部会講演会講演要旨	—	1
雨川公洋・山崎修一	硫黄粉剤の畝上散布によるピーマンうどんこ病の防除効果	日本植物病理学会報	77	35
山崎修一・雨川公洋	ハエ類とエアロゾルはピーマン軟腐病の伝染に関与するのか?	日本植物病理学会報	77	38
Yamasaki, S. Okazaki, S. and Okuda, M.	Temporal and spatial dispersal of Melon yellow spot virus in cucumber greenhouses and evaluation of weeds as infection sources.	Eur. J. Plant Pathol.	132	169-177
山崎修一	ネギ軟腐病に対するプロベナゾール剤の効果的な散布体系	植物防疫	65	323-326

執筆者	論文名	掲載誌名	巻(号)	掲載項
Yamasaki, S., Sakai, J., Fuji, S., Emoto, K., Kamisoyama, S., Ohshima, K. and Hanada, K.	Comparisons among isolates of Sweet potato feathery mottle virus using complete genomic RNA sequences.	Arch. Virol.	155	795-800
山崎修一・雨川公洋・満塩和昭・中西善裕・吉松英明	ネギ軟腐病に対するプロベナゾール剤の効果的な散布体系について.	九病虫研報	56	1-8
山崎修一	弱毒ウイルスによるサツマイモ帯状粗皮病の防除技術の開発	植物防疫	65	18-22
山崎修一・雨川公洋、他	市場病害としてのピーマン軟腐病の発生と伝染経路について	日植病報	76	212
安部貞昭・佐野雅俊・戸井田雄一・佐藤如・豊田朋美・江藤真美子	イチゴ‘さがほのか’に発生する先しぼり果(仮称)と栽培要因の関係	園芸学研究	第11巻別冊1	396
佐藤如、安部貞昭、戸井田雄一、吉田佳子	イチゴ‘さがほのか’‘大分3号’の果実成熟積算温度	園芸学研究	第10巻別冊2	146
戸井田雄一、佐野雅俊、安部貞昭、佐藤如	大分方式Y型高設栽培における液肥給液量がさがほのかの葉柄、排液及び土壌溶液中硝酸態窒素濃度に及ぼす影響	九州農業研究発表会専門部会発表要旨集	第74回	150

### (3) 研究会、学会等での発表

発表年月日	研究会、学会等の名称	発表者	発表課題名
H22. 4. 18-20	平成22年度日本植物病理学会	山崎修一、雨川公洋、他	市場病害としてのピーマン軟腐病の発生と伝染経路について
H22. 11. 10	第80回九州病害虫研究会秋季大会	山崎修一、雨川公洋	ハエ類とエアロゾルはピーマン軟腐病の伝染に関与するのか?
H23. 8. 26	平成23年度九州沖縄農業研究発表会 野菜花き部会	戸井田雄一	大分方式Y型高設栽培における液肥給液量がさがほのかの葉柄、排液及び土壌溶液中硝酸態窒素濃度に及ぼす影響
H23. 8. 26	平成23年度九州沖縄農業研究発表会 野菜花き部会	木村真美	気温予測を利用した夏秋トマトの裂果軽減技術
H23. 8. 26	平成23年度九州沖縄農業研究発表会 野菜花き部会	手嶋康人	冬ニラ株養成中の低温遭遇時間及び加温の有無が生育、収量に及ぼす影響
H23. 9. 4	平成23年度日本昆虫学会九州支部例会	山崎修一	ピーマン軟腐病の伝染環とタバコガおよびハエの関与について
H23. 9. 25	園芸学会平成23年秋季大会	佐藤如	イチゴ‘さがほのか’‘大分3号’の果実成熟積算温度
H23. 10. 25	日本有機農業学会	山野秀真	有機栽培が土壌微生物多様性に与える影響
H23. 11. 9	第82回九州病害虫研究会秋季大会	雨川公洋・山崎修一・祖田嘉教・大坪亮介・山下大輔・岡崎真一郎	ピーマン軟腐病の防除にはタバコガの防除が有効である

発表年月日	研究会、学会等の名称	発表者	発表課題名
H23. 11. 9	第82回九州病害虫研究会秋季大会	山崎修一・雨川公洋・玉嶋勝範・岡崎真一郎	ピーマン軟腐病の伝染にはタバコガとトウヨウクキエバエが関与する
H23. 11. 9	第82回九州病害虫研究会秋季大会	小野元治	大分県内のニラで採集されたネダニ類の薬剤感受性
H24. 2. 2	第83回九州病害虫研究会春季大会	雨川公洋・祖田嘉教・山崎修一	ピーマンうどんこ病に対する硫黄粉剤の畝上散布の散布間隔およびハウスの形状が防除効果に及ぼす影響
H24. 2. 2	第83回九州病害虫研究会春季大会	祖田嘉教、雨川公洋他	ピーマン果実を加害する鱗翅目による軟腐病の伝搬について
H24. 2. 2	第83回九州病害虫研究会春季大会	岡本 潤	大分県の有機栽培水田における主要害虫および主要天敵の発生状況
H24. 3. 28	第56回日本応用動物昆虫学会	岡崎真一郎・雨川公洋・玉嶋勝範他	夏秋ピーマンにおける硫黄粉剤畝上散布とスワルスキーカブリダニ放飼との併用によるIPM体系
H24. 3. 28	第56回日本応用動物昆虫学会福岡大会	和田志乃、岡崎真一郎、小野元治	フェロモントラップを利用したミナミアオカメムシの発生予察法の検討
H24. 3. 28	第56回日本応用動物昆虫学会福岡大会	上島慧里子、玉嶋勝範他	防虫ネット被覆によるタバコガ類の被害抑制効果とそのコスト試算
H24. 3. 28	園芸学会平成24年春季大会	安部貞昭	イチゴ‘さがほのか’に発生する先しぼり果(仮称)と栽培要因の関係

#### (4) 研究成果発表会

発表会の名称	開催年月日	開催場所	発表課題数	参加者数
平成22年度九州・沖縄地区植物防疫関係者研修会	H23. 2. 17-18	大分市	2	60
佐賀県野菜病害虫の防除に関する研修会	H23. 6. 29	佐賀市	1	150
平成23年度農林水産業現地研究成果発表会	H24. 2. 7	豊後大野市 エイトピアおおの	2	150
土壌肥料・病害虫に関する研究会	H24. 2. 29	きのこセンター	2	200
農林水産研究指導センター研究紹介	H24. 3. 5	大分文化会館	1	200

## 5. 研究成果の普及、技術指導

### (1) 講習会、研修会の開催

開催年月日	講習会、研修会等の名称	開催場所	参加者数	備考（共催、要請機関等）
H23. 4. 12	JGAP研修会	現地（耶馬溪・豊後大野）	15	おおいた茶グリーン推進協議会
H23. 5. 26	みつば養液栽培研修会	大分市	16	中部振興局、大分市ミツバ部会
H23. 5. 31	ピーマン生産者研修会	JAおおいた野津地域本部	80	中部振興局
H23. 6. 1	台切り研修会	豊後大野市千歳町	20	大分県茶業協会
H23. 6. 2	耶馬溪一番茶査定	中津市耶馬溪町	20	耶馬溪製茶
H23. 7. 8	大分県無人ヘリコプター所有者及び運営組織等連絡協議会	産業科学センター	50	おおいたブランド推進課
H23. 7. 14	大分県園芸技術者協議会イチゴ研修会	豊後大野庁舎	40	大分県園芸技術者協議会
H23. 7. 21	耶馬溪二番茶査定	中津市耶馬溪町	20	耶馬溪製茶
H23. 7. 22	いちご生産者協議会ブロック別研修会	佐伯市	50	大分県食料・農業・農村振興協議会
H23. 7. 26	イチゴブロック別研修会	玖珠町	50	野菜生産者協議会
H23. 7. 26	いちご生産者協議会ブロック別研修会	玖珠町	30	大分県食料・農業・農村振興協議会
H23. 7. 27	高糖度トマト1段密植栽培技術交流会	農業研究部	13	園芸振興室
H23. 7. 29	イチゴブロック別研修会	杵築市	100	野菜生産者協議会
H23. 7. 29	いちご生産者協議会ブロック別研修会	杵築市	90	大分県食料・農業・農村振興協議会
H23. 8. 5	佐伯市本匠茶講習会	佐伯市本匠	15	佐伯市
H23. 8. 9	茶業青年会紅茶加工研修	農業研究部	21	日本茶インストラクター協会大分県支部
H23. 8. 18	ピーマン研修会	臼杵市、豊後大野市	27	園芸技術者協議会
H23. 8. 23	専門能力強化研修（土壌肥料基礎）	豊後大野市	13	研究普及課
H23. 8. 30	第43回大分県茶品評会審査会	農業研究部	10	大分県茶業協会
H23. 9. 22	クワシロカイガラムシ防除対策研修	農業研究部	8	広域普及指導班
H23. 9. 29	専門能力強化研修（土壌肥料応用）	豊後大野市	12	研究普及課
H23. 10. 26	大分県園芸技術者協議会にら研修会	産業科学技術センター	25	
H23. 10. 27	大分県園芸技術者協議会イチゴ研修会	豊後大野庁舎	40	大分県園芸技術者協議会
H23. 10. 28	茶業青年茶鑑定技術研修	農業研究部	8	
H23. 11. 9	いちご生産者協議会研修会	農業文化公園	120	大分県食料・農業・農村振興協議会
H23. 11. 28	ピーマン土壌断面調査研修会	臼杵市、豊後大野市	15	園芸振興室
H23. 11. 29	ドリンク法人研修会	杵築市山香町	20	県内ドリンク茶法人

開催年月日	講習会、研修会等の名称	開催場所	参加者数	備考（共催、要請機関等）
H23. 12. 7	トマト部会茨支部総会（試験結果報告）	竹田市	100	豊肥振興局、みどり地域本部
H23. 12. 12	施肥防除研修会	農業文化公園	150	おおいたブランド推進課
H23. 12. 12	平成23年度施肥防除研修会	杵築市		全農おおいた
H23. 12. 21	ピーマン研修会	豊後大野市	20	園芸技術者協議会
H23. 12. 21	ピーマン栽培技術研修会	豊後大野市	15	園芸技術者協議会
H23. 12. 22	大分県園芸技術者協議会白ネギ研修会	花きグループ	20	
H23. 12. 22	被覆栽培研修会	農業研究部	10	県内生産者
H24. 1. 17	白ネギ生産者研修会	豊後高田市	25	
H24. 1. 24	トマト栽培技術研修会	竹田市	130	野菜生産者協議会トマト部会
H24. 2. 6	作物プロジェクト研修	宇佐市	15	水田農業G
H24. 2. 14	農薬指導士認定研修	産業科学技術センター	100	おおいたブランド推進課
H24. 2. 16	平成23年度九州・沖縄地区植物防疫関係者研修会 チャトゲコナジラミの発生状況と防除対策について（大分県の事例）	福岡県福岡市	56	九州農政局、九州・沖縄地区病虫害防除所職員連絡協議会
H24. 2. 27	ピーマン生産部会研修会	豊後大野市	200	大分県ピーマン技術者協議会
H24. 2. 27	ピーマン栽培技術研修会	豊後大野市	185	野菜生産者協議会ピーマン部会
H24. 2. 28	点滴かん水施肥研修会	場内、現地（臼杵市）	9	伊藤園農業技術部
H24. 2. 29	土壌肥料・病虫害研究会	豊後大野市	200	研究普及課、肥料植物防疫協会
H24. 3. 9	豊後大野市農業青年研修会	豊後大野市	40	豊肥振興局、備後大野市、JA

## （２）受入研修

①長期研修者受入          なし

②生産者、団体職員、改良普及指導員等短期受入研修及び視察対応

対象者	件数	受入人数
生産者	12	175
団体等職員	3	4
普及指導員	34	82
学生	14	6
海外研修者	1	3
その他	7	39
計	71	309

(3) 指導・研修プロジェクトの実証

課題名	目的	現地実証等の概要
ミナミアオカメムシを含めた大豆吸 実性カメムシ類に対する防除対策 の確立	大豆カメムシ類に対する防除体 系の普及	ミナミアオカメムシを中心としたカメムシ類に有 効な薬剤による体系防除の効果実証